

令和元年度 環境生活委員会 行政視察報告書

環境生活委員長 岡部 賢士

1. 視察日

令和2年1月16日（木）～令和2年1月17日（金）

2. 視察地

岡山県倉敷市 ①倉敷エリア（倉敷市役所、美観地区）
②児島エリア（児島商工会議所、児島ジーンズストリート）

3. 視察事項

- ①倉敷市観光振興について、美観地区の取り組みについて
- ②児島ジーンズストリートの取り組みについて

4. 視察概要

1日目は倉敷市役所にて文化観光部観光課の担当者から、倉敷市の観光統計、観光振興プログラムについての説明を受けた後、倉敷美観地区を現地視察しました。

倉敷市は瀬戸内海に面した広島と大阪の中間に位置する人口48万人の中核市で、倉敷地区、玉島地区、船穂地区、真備地区など、地域によって多彩な魅力を有しています。

ひとを惹きつけるまち・倉敷をめざす観光振興に向けた5つの戦略に基づく施策を推進しており、それらの取り組みの内容などについて説明を受けました。

歴史的背景や規模は龍ヶ崎市と大きく違い、観光振興の現状、課題も当然異なりますが、観光振興プログラムについては参考になる点も多くありました。特に、官民の協力体制や自治体を越えた広域の都市間連携、誘致活動戦略の考え方などは龍ヶ崎市においても積極的に取り入れるべき取り組みであると思われれます。

また、電柱地中化事業は、倉敷市では災害対策などと絡めて国の補助を上手に得ながら、市主体で行っているとのことでした。観光振興に限らず、環境政策、防災政策の面からも、今後の龍ヶ崎市の取り組みのヒントになりそうです。

実際に美観地区に行くと、その美しい街並みは本当に素晴らしいものでした。重要文化財や伝統的建造物などは、すぐに真似できるものではありませんが、龍ヶ崎にも誇れる文化財は多くあります。若柴宿の整備や牛久沼の100年先につながる感幸地づくり構想なども、美観地区の取り組みを参考にして、今後の龍ヶ崎の観光振興に活かせると考えられます。

2日目は児島地区に移動し、「児島ジーンズストリート」の取り組みについて視察しました。

児島商工会議所にて、児島ジーンズストリート構想の当初から中心となって取り組みを進めている担当の方々からの説明を受けた後、実際に児島ジーンズストリートを現地視察しました。

児島のジーンズを切り口とした取り組みは国内外からの集客向上、特に外国人旅行客を急増させた成果をあげており、地方創生の成功例として取り上げられることも多く、全国的にも大変注目されています。

繊維産業と観光を融合させた「児島産地まるごとブランド化」の取り組みは、繊維のまちの歴史、伝統と、国産ジーンズ発祥の地を活かせる革新性があることその児島地区ならではの取り組みですが、龍ヶ崎においても、コロッケ日本一やうな井発祥の地など、児島の取り組みを参考にできそうな材料、歴史はあり、今後の取り組み次第では観光振興で地域をまだまだ盛り上げていけるように期待できます。

児島ジーンズストリートや児島駅など児島地区内を実際に歩くと、本当にいたるところで様々な素材、要素がリンクされて「児島産地まるごとブランド化」の取り組みが徹底されていると感じました。

また、ジーンズストリートは商店街の空き店舗へショップを誘致して誕生していることから、当市の課題の一つでもある、空き店舗活用の参考になる何か画期的な取り組みがあるのかと期待しておりましたが、担当の方から話を聞くと、実際には決して簡単なものではなく、地道な交渉の繰り返しであったとのことでした。

空き店舗活用に限らず、予算の確保から、地元の方々、企業との交渉、PR活動など、取り組み全般を通して、どれも徹底的に粘り強く地道に取り組んできたことが、成果に繋がっているということであると思われれます。特に、ジーンズストリート構想を中心となって進めている地元の方々のやる気、熱い思いが相当なものであると感じました。

やはり、地域に活気を取り戻すためには、地域の歴史や素材を活かす様々な工夫、アイデアとともに、その地域の方々の強い思いと覚悟、そして、地道な努力が不可欠なのであろうと感じました。